

地域貢献を見据えた 管理栄養士の挑戦！



秋山 温 [あきやま・のどか]
老人保健施設かずえの郷（愛知県）

はじめに

2020年4月、私は医療法人豊和会老人保健施設かずえの郷へ管理栄養士として入職しました。新しい環境への不安を感じながらも、食事に対する取り組みに心躍らせていたことをいまでも覚えています。

老健施設における管理栄養士の役割は、法改制や社会の動向に伴い変化しています。この変化を強く感じながら、当施設は質の高い栄養管理をめざし、ご利用者のQOL向上につながる食事の提供に取り組んできました。そして日々の業務を通じて、地域社会に貢献できるよう努めています。

施設紹介

当施設は、愛知県豊田市南部の穏やかな田園地帯に1995年4月に開設しました。入所定員は130名、通所リハビリ定員は100名で、2024年度より訪問リハビリも開始しています。併設事業として、認知症対応型共同生活介護3ユニット、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを展開しています。家庭的な雰囲気大切にしながら自立を支援し、家庭復帰をめざした看護・介護・リハビリの提供、地域と家庭との結びつきを重視し、在宅での介護を支援することを理念に運営しています。

その理念を念頭に置き、開設当初から食事を最も身近なリハビリの場と考え、複数選択メニュー（現在、朝食2選択、昼食・夕食5選択）、通所リハビリに向けたレストランメニューなど、ご利用者が能動的に食事に向かうことができる独自の取り組みを展開してきました。

管理栄養士としての役割

ご利用者の日々の喜びにつながる食事の提供を模索し続けるなかで、栄養ケアマネジメントの強化が必須となった現在、ミールラウンドは私たちにとってご利用者と接する大切な業務です。ご利用者の健康状態や食への意欲、食事の摂取状況、安全性などを確認するだけでなく、コミュニケーションを構築する貴重な場面となっています。

食欲が低下し、食事摂取が思うようにいかないご利用者に対しては、看護、介護、リハビリ職など多職種で摂取できない要因を検討します。その検討内容は、食事形態やメニュー、姿勢、環境、内服内容など多角的なアプローチが必要で、多職種連携により改善の糸口が見つけられた際は、非常にうれしく感じます。そして私自身の知識を多角的に高め、スキルを上げる必要性を痛感します。

管理栄養士としておやつづくりをメインとしたレクリエーションへの介入も学びの多い場面です。私が担当している認知症棟のレクリエーションでは、個人写真撮影会や各季節のイベントなど、ご利用者の心を動かす内容に工夫を凝らしており、毎回笑顔が絶えません。おやつづくりを企画したレクリエーションでは、にぎやかな雰囲気と香りにいつも人が集まります。メニューはご利用者の意見をもとに決定しています。

ケーキやスペシャルパフェ、そして懐かしい味のクリームソーダなどを通じて、それぞれのご利用者が自らの生活歴から楽しい思い出を回想し、会話が弾む様子が見受けられます。普段は表情が硬く食事を残されるご利用者も自然と笑顔になり、完食される